自ら学び、考え、行動する

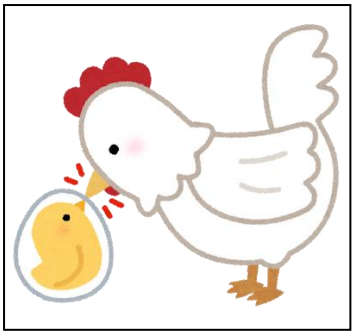
若浜の子ども

令和７年１月２８日　第７号

「啐啄同時」に表れる本校の教育の真髄

～子どもたちのやる気を　最大限に応援します～

若浜小学校の職員室には「啐啄同時」という禅語が掲示されています。「啐」は卵の中の雛が出ようとする行為、「啄」は生まれ出ようとする雛のようすに気づいた親鳥が、外側から支援する行為を表し、二つが同時に成されなければならないことを表しています。「学ぼうとする者の意欲」と「教え導く者の支援」の息が合って、教育ははじめて成り立つという意味です。



本校の「自分から」「温かく」「見つけ出す・探し出す」の重点は、子どもたちの「学びたいという気持ち」と先生方の「たくさんの気づきがあるように活動を工夫する気持ち」が高まるように考えられています。

これまでがんばり続けてきたことが子どもたちの意識や思考の深さにつながっていることを喜びながら、これからも自分の学んだことに誇りをもち、幸せに生きていってほしいと願っています。

【学校生活の中でうかがえる「啐啄同時」】

◇登校班長会で自分たちの登校の仕方をふり返り、先生方といっしょに解決案を考えます
◇雪かきをしようと発案した環境福祉委員会の子どもたちのために、雪かき道具を購入してあげる先生方
◇「探し出す・見つけ出す」学び方で進める毎回の授業や活動
◇休み時間も、次の日の縄跳び集会の打ち合わせをする委員長の皆さん
◇自分たちの生活を改善しようと真剣に相談し合う子どもたち

大雪の朝、一年生に付いた雪をふいてあげる上級生のやさしさ

これまで見つけてきた生き方の宝物は
これからの生活も 温かく豊かにします

いろんな教室を巡り歩いていると、たくさんのほほえましい姿を目にします。特に喜ばしいのは、その時間の学習目標に向かい、活動の魅力にはまりながら「真剣に・全力で・友だちと共に」取り組む姿です。これらの姿は、秋までのいろんな活動を通して見つけてきた宝物そのものです。

今年度、若浜小でがんばってきたことは、大きな行事や活動で見つけた「よい生き方という宝物」を、普段の生活にも続けていくことです。子どもたちが見つけるよりよい生き方が多いほど、また、ひたむきに続けていってくれるほど、教職員としてうれしい気持ちになります。

「みんなの役にたちたい」豪雨災害募金とお助け雪かき

「夏の大雨で大きな被害を受けた方を助けてあげましょう」と必死に募金のお願いを呼びかける環境福祉委員会の子どもたち。直接、お手伝いに行くことは難しいけれど、何かできることはないかと考える姿に心を打たれます。集まった金額は、昨年の３倍にもなりました。環境福祉委員会委員長の豊田和夏さんと副委員長の那須　優楽乃さんが社会福祉協議会を訪れ、募金と思いを伝えてきました。

また、年明けの大雪第一弾では、通路が行き来しづらくなったことを見かねて、雪かきを発案した子どもたち。どの行動にも「温かさ」と「自分から」「本気」がつまっていますね。

「ようこそ。新１年生のみなさん」温かさいっぱいの体験入学

１月の中旬には、「新入生体験入学」ではりきる５年生の姿がありました。学校紹介あり、楽しいゲームあり、プレゼントありと、新しい１年生を喜ばせようとする先輩としての気づかいに満ちていました。「こんなに楽しいことがいっぱいあるよ」と、小さな子の目線に立って進める姿の中に、最上級生になることを意識した大人らしさ、自覚や責任感が伝わってきました。新入生の心も、がっちりつかんでいましたね。